

新学術領域研究「ゲノム普遍的制御」(H22~H26年度)
公開シンポジウム

ゲノム安定性の機構と 生命の維持

—進化、癌化、老化の理解のために

平成27年 8月28日(金)~29日(土)

京都大学百周年時計台記念館 国際交流ホールII

■参加費無料・事前登録不要・入場随時

■懇親会(会費4,000円:要登録)

主催:文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究(研究領域提案型)

「ゲノム複製・修復・転写のカップリングと普遍的なクロマチン構造変換機構」

後援:京都大学放射線生物研究センター

8月28日(金)

- 13:30~13:35 はじめに
- 13:35~14:35 安井 明 (東北大学) 新しい実験方法で世界の見方を変えよう
- 14:35~15:35 田中亀代次 (大阪大学) NER因子の同定と機能解析及びその欠損病態の解明をめざして
- 15:35~16:00 コーヒーブレイク
- 16:00~17:00 花岡 文雄 (学習院大学) 私のDNA修復研究: XPCからXPVへ
- 17:00~18:00 関口 睦夫 (福岡歯科大学) 自然突然変異の起源を探る
- 18:00~20:00 懇親会 (国際交流ホールIII)

8月29日(土)

- 9:30~11:00 関 政幸 (東北薬科大学) 核内反応におけるヌクレオソームの普遍的制御
- 浦 聖恵 (千葉大学) プログラムされたDNA損傷修復を制御するH3K36メチル化酵素Whsc1
- 益谷 央豪 (名古屋大学) PCNAのモノ、ポリ、マルチ-ユビキチン化によるDNA損傷トランスの制御
- 山縣ゆり子 (熊本大学) DNA修復酵素の構造生物学の新視点
- 11:00~11:25 コーヒーブレイク
- 11:25~13:15 高橋 達郎 (大阪大学) 真核生物ミスマッチ修復機構がクロマチン複製の場で機能するメカニズム
- 井出 博 (広島大学) DNA-タンパク質クロスリンクの検出と生物影響
- 中田慎一郎 (大阪大学) ユビキチン依存性DNA損傷応答研究とその応用に向けての取組み
- 井倉 毅 (京都大学) ゲノムストレスにおける動的クロマチン平衡
- 河野 隆志 (国立がん研究センター) 肺がん個別化治療: がん遺伝子融合とクロマチン制御遺伝子欠損を標的として
- 13:15~13:20 おわりに

連絡先: 花岡 文雄 (学習院大学理学部生命科学科)

E-mail: fumio.hanaoka@gakushuin.ac.jp

Tel: 03-3986-0221 (内6457) Fax: 03-5992-1029